

助産師の紹介

産婦人科病棟看護師長
樋口 美恵子



当院は西部圏域の地域周産期母子医療センターであり、年間分娩数は、平成 23～25 年度は約 330 件です。助産師が中心となり、妊娠中のマザーズクラス、附属外来センターにおける助産師外来、産褥期の堤式乳房マッサージ認定者による乳房管理などを行っています。スタッフ全員が妊婦、産婦、家族に寄り添い、安心して分娩できる環境を提供しています。また、地域の保健師と連携を密にし、母親をサポートしています。ケースによっては、入院中に母親と保健師の面談を依頼、実施し、退院前に母親が安心して育児できる環境を整えています。約 10 ヶ月の妊娠期間を過ごし、陣痛を乗り越え、わが子を抱く母親の笑顔と赤ちゃんは、私たち助産師にとって働くエネルギーの源です。たくさんのエネルギーを得て、地域の母子周産期医療および看護の質の向上を目指し、日々研鑽しています。

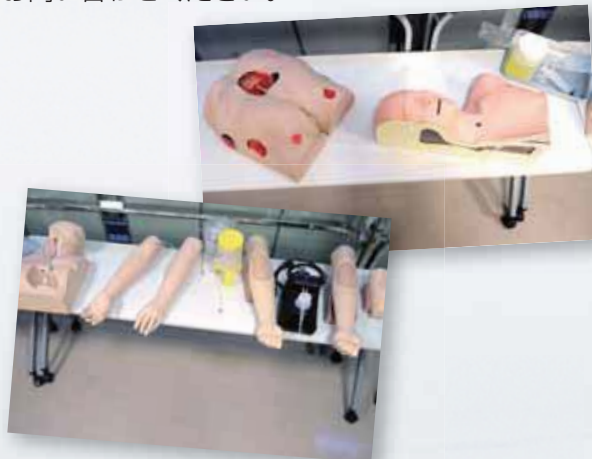


シミュレーター室が開設されました

様々な医療手技の習得には、シミュレーターと呼ばれる模型を用いた練習が有効とされています。当院では昨年の 12 月から、各種のシミュレーターを取りそろえた専用の部屋を開設しました。採血、中心静脈穿刺、心肺蘇生、心音・呼吸音の判断など実物さながらの模型が並んでいます。今後さらに機種を拡充を図る予定です。診療部、看護部の若手だけでなく、院内の様々な職種の方にも利用していただき職員全体のレベルを上げていくことに役立てたいと思います。院外の方も事前に申し込みいただければ使用できます。詳しくは当院の研修管理センターにお問い合わせください。



病院長補佐兼
研修管理センター長
塚田 義人



2015年 冬号 発行日▶2015.2.20

公立藤岡 総合病院

地域医療連携だより

病院の理念
患者本位の医療

基本方針

- ・患者さまの意思を尊重し、信頼される医療を提供します。
- ・地域中核病院として、高度な医療と救急医療の充実に努めます。
- ・急性期病院として関係機関と連携し、地域医療の充実を目指します。
- ・地域がん診療連携拠点病院として、機能の充実強化に努めます。
- ・臨床研修指定病院として、地域医療を担う優れた医師の育成に努めます。
- ・地域医療支援病院として地域の医療人の教育・研修の充実強化に努めます。

公立藤岡総合病院の未来をかたちに

組合事業統括兼病院長 石崎政利



昨年は大雪災害、局地的豪雨災害、御嶽山噴火、長野地震など自然災害に対し、BCPの導入の重要性を思い知らされた年でした。また、医療法改正や診療報酬実質マイナス改定など病院にとって逆風の年でもありましたが、新体制の下、「新しい公立藤岡総合病院の創造元年」として新病院建築準備や医療の質の改善に取り組んでまいりました。

今年2015年は、公立藤岡総合病院の未来をかたちにする年です。地域で完結できる医療提供体制を構築するために、当院は急性期病院としてふさわしい機能を整備し、地域連携を進めていかなければなりません。病床機能報告制度が始まって、病床再編はすでに多くの病院で動き出しており、地域医療構想の策定もスタートすることになっています。27年度予算編成の中でも社会保障給付費抑制に向けて、過剰な急性期病床（7：1）の削減や平均在院日数の短縮、診療報酬抑制などが取り上げられています。当院を取り巻く医療環境は大変厳しい状況ですが、病院機能再整備計画や病院機能評価・臨床研修評価受審で病院の一体改革を行い、この難局を乗り越え、これからの公立藤岡総合病院の10年・20年先を決める年にしたいと思っています。

新病院建築においては昨年10月から文化財発掘調査が始まり、12月から実施設計に着手しました。今年は実施設計の詳細を詰め、完成させる予定です。また、3月には医療の質の向上にむけて病院機能評価・臨床研修評価受審を予定しております。医療安全を土台とし医療の質を高め、病院の付加価値を高めていきたいと思っています。

今後も地域から信頼され選ばれる病院を目指し、地域医療の確保に努めてまいります。皆様のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。



臨床研修

研修理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割と医療チームの一員であることを認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けると同時に医療安全への配慮を身に付けることを基本理念とする。

基本方針

1. 基本的知識・技能・態度を習得する。
2. 患者中心の医療を理解し、実践する。
3. チーム医療の重要性を理解し、実践する。
4. 医療安全を深く理解し、実践する。
5. 医療人としての倫理観を養成する。
6. 地域医療の重要性を理解し、実践する。

12月2日 研修医症例発表会

発表者及び演題

1. 村主 遼（血液内科）
難治性 Evans 症候群の治療経過中に自己免疫性好中球減少症を合併した一例
2. 齋藤 水絵（小児科）
陰性症状が主体であった急性散在性脳脊髄炎（ADEM）の幼児例
3. 福田 修一（循環器内科）
目撃者のいない CPA 蘇生後に脳低体温療法を行い、神経学的後遺症を残さず完全社会復帰に成功した一例
4. 得居 俊介（外科）
中国で就労中に発症した孤立性肺腫瘍の一切除例
5. 本吉谷 真里子（腎臓リウマチ内科）
甲状腺機能低下症により慢性心不全、腎不全の増悪を認めた一例
6. 佐々木 隆文（泌尿器科）
精巣腫瘍との鑑別が困難であった巨大陰嚢腫瘍の一例



第2部では審査発表が行われ、今年度は齋藤 水絵先生と本吉谷 真里子先生が優秀賞を取りました。

研修医症例発表会の感想

日頃より大変お世話になっております。12月2日に外来センターにて研修医症例発表会が開催されました。御出席賜りました医師会の先生方、院内スタッフの方々、誠にありがとうございました。医学的知識や発表技術が未熟だと感じながらも、経験豊かな先輩方の前で貴重な機会をいただき大変有難く思っております。今回の経験を今後の学会発表等に活かしていきたいと思っております。今後とも、ご指導よろしくお願い致します。



臨床研修 1年目
齋藤 水絵

10月30日 第4回院内学会

病院長賞
受賞



臨床検査技師
宮下 咲貴子

私は検査室の代表として、院内に新しく導入した結核の検査法である「Lamp 法」について発表させていただきました。いつも行くような学会と違い、院内学会では各部署から様々な職種が集まります。発表者としては、他の職種の方にも分かるよう説明しなければならないので難しかったとは思いますが、それぞれ工夫を凝らしすばらしい発表をされていました。普段関わることの少ない職種の仕事内容を知るよい機会となりました。嬉しいことに、私は病院長賞をいただくことができました。病院長をはじめ、審査員の方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。

11月14日 ぐんまレジデントグランプリ 2014

12病院のうち第2位に選ばれました

レジデントグランプリの感想

日頃より大変お世話になっております。11月14日に群馬大学医学部附属病院にて開催されました。医師会の先生方をはじめご出席を頂いた皆様、ありがとうございました。レジデントグランプリは医学部学生を対象とした発表であり、学会発表とはまた異なる視点で症例を検討することができました。今後の診療に向けて大変貴重な経験をさせて頂きましたことを大変感謝しております。今後とも御指導の程宜しく願い申し上げます。



研修医1年目
本吉谷 真理子

